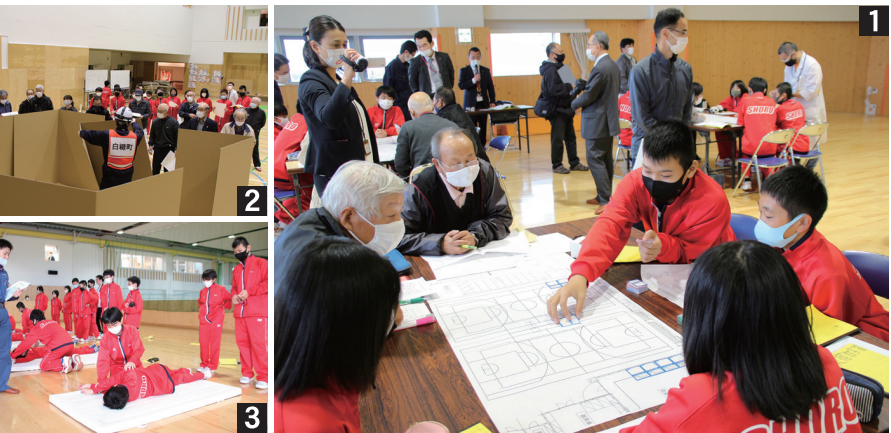




1. 「15歳の夢を形にする」というテーマで行われた9年生の卒業研究発表会。発表者が自分らしさを発揮したすばらしい発表会になりました。生徒が夢の実現へと確かな方向性を持てるように学校は支援していきます。2. 運動会や学園祭では、ブロック（初等部・中等部・高等部）での発表や異学年での合同種目など義務教育学校ならではの取り組みがあります。



1. 昨年の10月30日、31日に行った「防災宿泊学習」。「HUG（ハグ）」という避難所運営ゲームは、避難所となる学校の図面上に、避難者のプロフィールが書かれたカードを置いていくものです。風邪を引いている人、妊婦、認知症の高齢者、ペット連れなど、避難者のさまざまな状況に応じて、どこに配置するのが適切かを考えます。2. 避難所においてウイルスなどの感染を防ぐための段ボールパーティションを作成。3. 釧路西消防署白糠支署の職員から救急講習を受けました。



の役目だと思っています。今年度、卒業研究として「15歳での夢を形にする」というテーマで発表会を行いました。それぞれの個性が表れた素晴らしい発表を聞くことができ、うれしく思っています。

——庶路学園が避難所になっていることで、地域との関わりや児童生徒たちの意識に変化がありましたか。

子どもたちの安心感が全然違います。避難訓練も実施していますが、学校から避難するという訓練よりも、校内で火災が発生した場合の避難行動ですとか、登下校中の避難行動、あとは避難してきた方をどうやって受け入れるかというような訓練を行っています。役場地域防災課にも協力をしていただき「防災ワンデー」を通じた防災意識の向上に努めています。また、昨年の10月30日・31日には「防災宿泊学習」を行いました。地域の方にも参加していただいたことで、生徒たちと「顔の見える関係」ができました。いざというときのためにも、日頃から学校と地域とが「顔の見える関係」を作り上げておくことが重要だと思いますし、そのために学校と地域とが連携・協力し

て防災訓練等を実施することが必要だと思っています。

元々子どもたちの防災意識は、低くはなかったのですが、学校が指定避難所になったということで、一層防災意識は高まったと感じています。地域と協働した避難訓練や防災宿泊訓練を通して「たくましく生き抜く力」を育んでほしいと思っています。

——防災教育を通して、学校の教育目標である「自立」「協働」「剛健」に繋がっていくと。

そうですね。防災宿泊学習では、白糠郵便局の蔵本博幸局長に「HUG（ハグ）」という避難所運営ゲームをやっていたのですが、HUGは「答えがない」ゲームなんですよね。どれが正しいのか、ということは実際の避難所の状況で違ってきますから。何が課題なのか、その課題に対して何が必要なのか、そういったことを考えることが大切だと思います。自分で考えて、まず判断し、仲間と話し合いながら解決していく、それも考えることを諦めずに粘り強く解決していく。このことが、教育目標に繋がるとともに、生き方にも繋がる学習（学び）と言えます。